

人工的な巣箱での営巣に限らず、自然の樹洞での営巣でも、カラ類の雛の半数以上はヘビの餌食になると考えられています。私の観察した過去の営巣でも、およそ半数が犠牲になっています。

人工的な巣箱で人為的にヘビの害を防ぐのは、或いは良くないことかも知れません。しかし、せつかくつくった遠隔操作可能な巣箱口シャッターです。毎晩、親鳥が来ない19時過ぎから翌朝4:30頃まで、閉鎖しています。これで少なくとも夜間のヘビの侵入は避けられ、雛が生き残る確率は80%以上になります。

今回の動画は、シャッターが閉まる様子と、その時の雛たちの動作です。通常シジュウカラの雛は、巣箱に何かが当たる物音がすると、それが親鳥でなくても、反射的に口を開けて、餌をねだる動作をします。しかし、19時過ぎにシャッターを閉めても、わずかに動いただけで、じっとしていました。夜間は親鳥が来ないので、物音がしたら外敵であると判断しているのでしょう。

(2023年7月上旬／北軽井沢の巣箱)

